

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	エレメンタリスト	Lv.1:		レベル	25
サポートクラス	ニンジャ	Lv.1:	シーフ	性別	男
称号クラス				年齢	17
種族	ヴァーナ			境遇	天涯孤独
出自 (効果)	犯罪組織			目標	逃亡

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	12	7	42	30	39	16	8
ボーナス	4	2	14	10	13	5	2
クラス修正	0	1	1	3	2	1	0
他修正				10			
能力値	4	3	15	23	15	6	2

HP	182
MP	285
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	アブソリュートスタッフ	至近	-1	8	0	0	0	0	0
左手									
頭部	風の髪飾り						3		
胴部	バニッシュローブ				-1	6	-5		
補助	時の砂時計					3			2
装身具	真理の書								
能力値			3	0	15	0	6	30	9
スキル									
その他					18				
総計(右)			2	8					
総計(左)					32	9	4	30	11
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	3 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	15			15	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	15			15	+ 2 d
エネミー識別	23			23	+ 2 d
アイテム鑑定	23			23	+ 2 d
魔術判定	23			23	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
ハイMPポーション	ベルトポーチ
グレートMPポーション	小道具入れ(エメラルド*5)
万能薬*3	ポーションホルダー
虹の輝き	水牛
蝶の巻物	ビーストカレー
契約の宝石	グリーンカレー
エメラルド*25	
爆撃符	
上位爆撃符	
上位呪壁符	
異次元バック	

現在重量: 69 所持金: 87 預金・借金:

最大重量: 76

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
アクロバット	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	猫族、作成時に敏捷基本値に+3							
コントレイション	★	-	パッシヴ	-	自身			
効果:	魔術判定+1d							
リゼントメント	★	-	効果参照	-	自身	自動成功	ダメージ	
効果:	魔法攻撃と同時に使用する。魔法攻撃を[対象:単体]に変更、ダメージ+[CL*10]							
バタフライダンス	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	回避判定+1d							
ドッジムーブ	1	2	効果参照	-	自身	自動成功	盾未装備	
効果:	回避判定と同時に使用する、その回避判定の達成値+(SL+2)増加させる。							
ファイアロード	1							
効果:								
トレーニング/敏捷	★		パッシヴ					
効果:								
ホーム/ベルリール	★							
効果:								
エンラージリミット	★							
効果:								
インテンション	★							
効果:								
フェイス:セフィロス	★							
効果:	敏捷/感知							
ゴッデスブレス/魔法	★							
効果:	魔法攻撃のダメージに+2							
トレーニング/感知	★							
効果:								
スペシャリストI	★							
効果:								
スペシャリストII	★							
効果:								

物心ついた時から両親は既におらず、犯罪者ギルドの元一員だった姪も知らない無口なメイジ。教養はほぼ受けてないが文字を書くことには長けており、体力があまりにも少ないため口や目を開くことをやめ、紙に書いて見せるという行動で極力体力を使わないようにしている。(このせいで日頃寝てるのが起きてるのが非常に分かりづらい。)

本気を出す時には喋りもするが精々全力から1分持っていいほうである、それほど魔力の消費が激しく元から少ない体力で動くことが困難だと言う証拠だ。

母親は産んだ後命を落とし、父親は任務中に戦死してしまった、その為この子に姪は伝えられておらず、「姪無し」と言われていた。

仮としてつけられたアーネストだが、正直本人はあまりこの名前を気に入ってはいない、仮だと言うもあるが赤の他人から付けられた名は何かと複雑な心情を抱く。

現在は犯罪者ギルドから抜け出し逃亡生活中。

<15シナ後>  
変な力を使えるようになって自分が自分でない感触を味わい続け、何かするたびに疲弊することには変わりはないが、魔法は白紙にいつも文字を書くようにスラスラと形にできるようになった。だが同時に破壊衝動が徐々に内から湧き出てくるようになった、目の前にいる敵を殺すことを考えるだけの生きる屍と変わらない。

体内にある魔力の量は確実に増える一方、消費が驚異のスピードで加速していることに本人は気づいていない、体への負荷は肥大していき次第に戦闘中に動けなくなるだろう。昔から体が弱いにも関わらず膨大な魔力に耐えられる訳などなかった。

